

問い合わせ先
第十一管区海上保安本部
海洋情報調査課長 松本 正純
TEL098-867-0118 (内線 2530)



第十一管区海上保安本部
平成 25 年 10 月 25 日

残波岬周辺において未知の沈没船を発見？

第十一管区海上保安本部では、本年5月中旬から8月下旬にかけて、所属の測量船「おきしお」を使用し、残波岬周辺海域の海底地形調査を実施し、詳細な海底地形が明らかにしました。その際、残波岬周辺において、未知の沈没船らしきものを発見しました。

当本部では今年度から5カ年計画で名護から那覇にかけての沖縄本島中南部西方海域と慶良間列島海域の海底地形調査を行っています。今年度は、残波岬周辺海域の水深200mから沖縄本島側の沿岸部を調査しました。【資料1】

今回調査した海域の海底地形は、水深60m付近と水深90m付近に平坦面があり、その間が急な崖の階段状となった海成段丘が全域に亘って見られます。残波岬の西方は、特に大きな平坦部の広がりがあります。これらの海底地形は、これまでの調査と合わせ学術的にも貴重な資料となります。

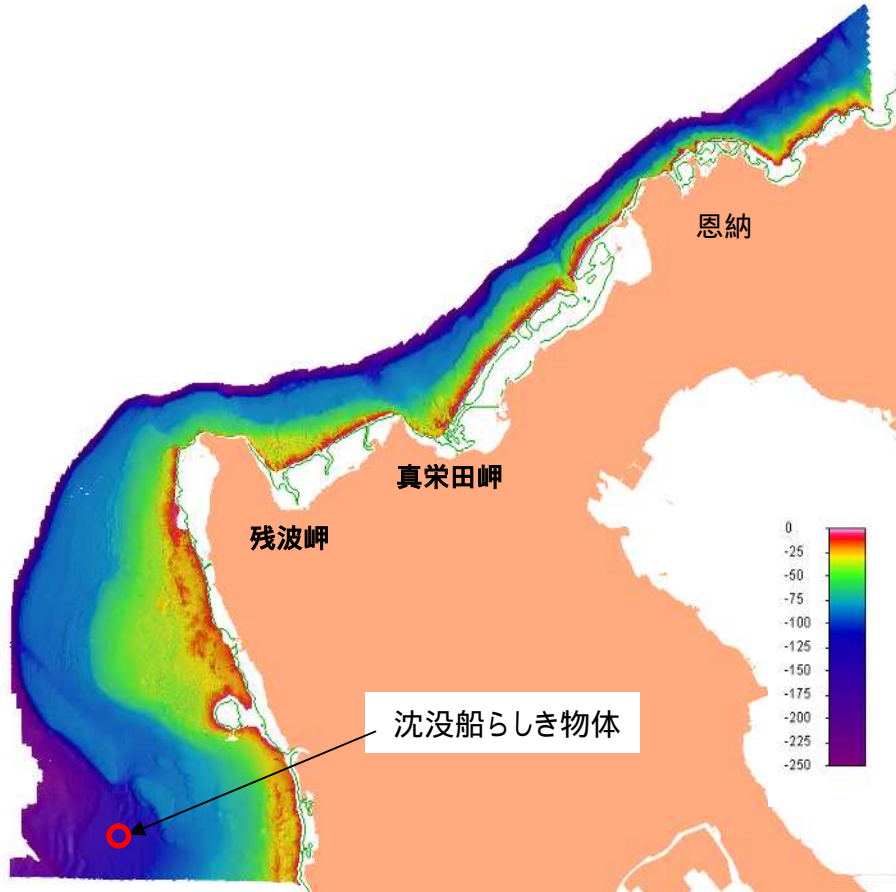
今回の調査海域において、海図に記載されていない沈没船らしき物体を発見しました。沈没船らしき物体は、全長約60mで、残波岬の南南西方約11キロの水深130mの平坦な海底に存在します。当本部には、この海域での沈没事故の情報が無いことから、昭和47年の当本部設立以前に沈没したものと考えられます。【資料2】

今回の詳細な海底地形調査で発見された海図記載水深より浅い所については、十一管区水路通報において周知しました。【資料3】

今回取得した海洋調査データは、海域の基盤的な情報として管理するほか、海図に反映していきます。

【資料1】

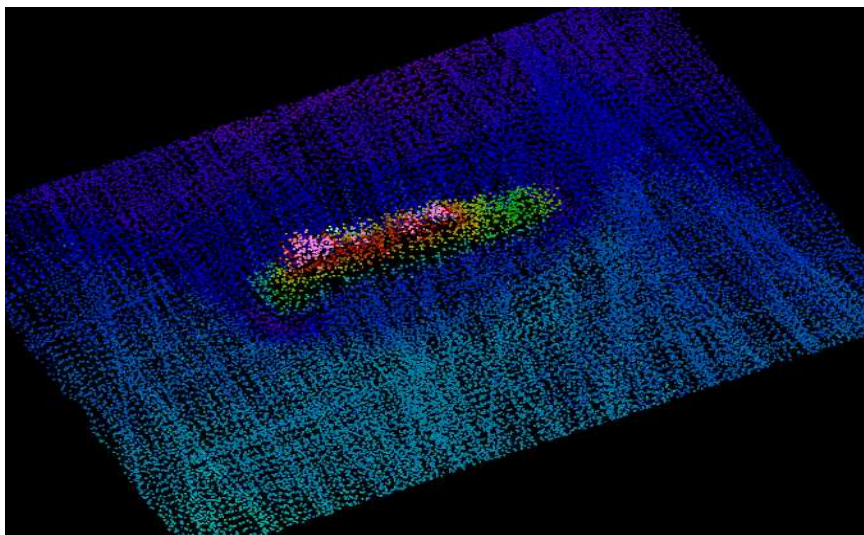
今回の海底地形調査で得られたデータで作成した海底地形図



【資料2】

沈没船らしき存在を確認

- ・ 大きさ：全長約60m、幅12～13m、高さ12～13m
- ・ 周囲の水深：130m
- ・ 十一管区本部開設以前に沈没したものと推測



【資料3】

海図掲載の水深より浅い海域として十一管区水路通報に掲載

2013年805項 南西諸島 - 沖縄島西岸 浅所存在
沖縄島西岸において、浅所が存在する。

位置 1. 下記14地点

- | | | |
|------|-------------|---------------------|
| (1) | 26-31-16.0N | 127-54-43.8E(水深約2m) |
| (2) | 26-30-47.7N | 127-53-21.9E(水深約1m) |
| (3) | 26-30-31.0N | 127-52-55.8E(水深約3m) |
| (4) | 26-30-08.6N | 127-50-30.3E(水深約4m) |
| (5) | 26-29-58.2N | 127-50-25.6E(水深約2m) |
| (6) | 26-29-50.4N | 127-50-17.7E(水深約3m) |
| (7) | 26-28-28.9N | 127-48-55.5E(水深約2m) |
| (8) | 26-26-35.7N | 127-47-06.6E(水深約1m) |
| (9) | 26-26-41.0N | 127-45-48.0E(水深約3m) |
| (10) | 26-26-29.5N | 127-45-21.3E(水深約1m) |
| (11) | 26-26-14.7N | 127-44-50.5E(水深約1m) |
| (12) | 26-26-01.8N | 127-44-17.9E(水深約2m) |
| (13) | 26-25-56.6N | 127-43-57.6E(水深約3m) |
| (14) | 26-25-24.9N | 127-42-15.6E(水深約2m) |

海図
出所
掲載日

W222A、W222B
第十一管区海上保安本部
平成25年9月6日

